

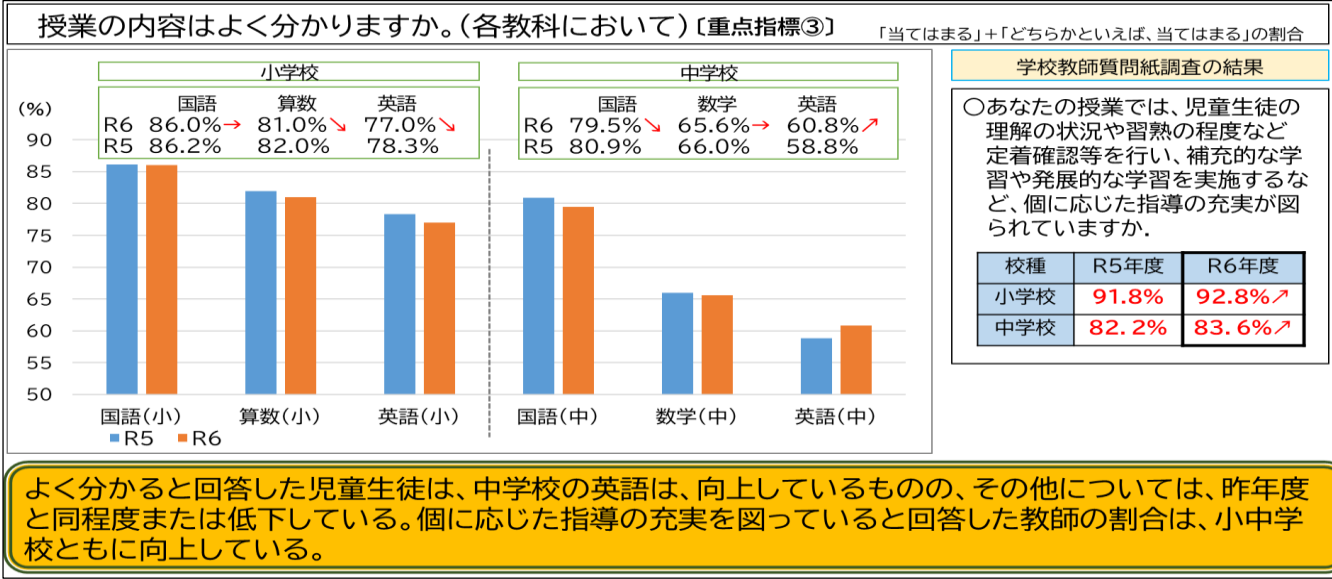
令和6年度(2024度) 熊本県学力・学習状況調査 教科に関する調査の詳細

各学年・各教科の正答率・正答率3割未満の割合

小学校	3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(※1)	62.2	70.3	66.7	66.5	66.2	61.0	64.8	66.5
県 平均正答率	64.3	73.7	70.8	74.0	74.0	66.7	69.4	73.6
全国 平均正答率	62.3	70.9	69.9	68.0	71.9	62.2	69.9	67.3
全国平均正答率を100としたとき	103.3	104.0	101.3	108.9	103.0	107.2	99.2	109.3
R5年度	98.4	105.8	103.0	105.8	107.8	108.6	101.7	104.0
3割未満の割合(%)	4.7	5.5	2.0	3.9	1.7	7.0	1.9	3.3

中学校	1年			2年			※1 「目標値」は、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答が期待される割合の合計を示したものです。
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	
目標値(※1)	57.5	55.2	61.1	55.6	51.7	59.5	※ 数値は、小数第2位を四捨五入して示しています。
県 平均正答率	61.4	55.0	50.1	58.7	51.3	44.6	
全国 平均正答率	59.9	56.2	56.8	58.0	49.6	52.1	
全国平均正答率を100としたとき	102.4	97.9	88.1	101.3	103.4	85.6	
R5年度	100.0	103.2	94.7	100.1	99.1	92.5	
3割未満の割合(%)	6.9	16.1	19.7	7.8	28.2	29.5	

学習内容の理解度に関する経年変化（令和5年度→令和6年度）



成果と課題

成果

課題

○全国平均を超える教科は10教科であり、令和元年度からの調査開始以来、今回初めて、小3国語と中2数が、初めて全国平均を上回った。

△中学校で学力及び理解度が低下している。→小中の円滑な接続に向けた取組の充実が必要
△中学校英語については、昨年度より低下し、全国平均を下回っている。
→これまでの取組を振り返り、今後の取組を検討

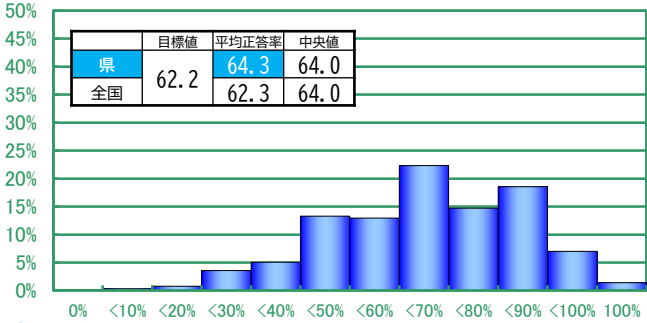
※今後の取組については、本HP内の「今後の取組に向けて」及び令和7年2月27日付け教義第1010号通知の【別紙1】を参照ください。また、本HP内の「参考資料」に今回の結果等を踏まえた授業改善等に関する校内研修資料を掲載しています。ご活用ください。

小学校第3学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	64.3	62.3
	基礎	66.4	65.0
	活用	60.0	56.5
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.0	67.2
	情報の扱い方に関する事項	58.5	58.7
	話すこと・聞くこと	54.0	54.9
	書くこと	66.3	57.0
	読むこと	59.3	58.8
観点	知識・技能	66.4	65.8
	思考・判断・表現	61.0	57.3
	主体的に学習に取り組む態度	65.2	58.1
解答形式	選択	58.0	57.5
	短答	74.3	75.0
	記述	65.3	56.9

★正答率度数分布

■ 県



成果が見られた問題

- 5 (3) 正答率 62.0% (全国値 57.8%)
中心となる語や文を見つけて要約している。
- 7 正答率 78.8% (全国値 64.8%) 〈注意する点①～④の平均値〉
段落の役割について理解し、内容の中心を明確にし、指定された長さで自分の考えを書いている。

課題が見られた問題

- 3 (2) 正答率 24.9% (全国値 30.9%)
様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。
- 6 (2) 正答率 38.8% (全国値 40.9%)
情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いている。

小学校第3学年 国語

新たに課題となった問題

●3(2) (本県 24.9%)

- ・様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすること
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

- 【誤答】
・「2」を選択 (県 19.4%)
・「3」を選択 (県 20.8%)
・「4」を選択 (県 33.2%)
【無答率】(県 1.4%)
- 【正答】
・「1」を選択 (県 24.9%)

誤答例から想定される
授業での児童の姿

例えば「読むこと」の学習において、様子や行動、気持ちや性格を表す語句を意識して捉えていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

・R5 県学調 3(2)

※その他、文学的文章の学習後に、行動や気持ちを表す語句について確認テスト等を実施する。

～こんな児童の姿へ～

人物などの様子や特徴、行動や気持ち、性格を表す語句を増し、話や文章の中で使おうとする児童

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 文学的な文章を扱う単元(3・4年知技(1)オ)
〈光村図書3年:「まいごのかぎ(6月)」、「ちいちゃんのかげおくり(10月)」、「モチモチの木(3月)」〉
〈東京書籍3年:「サーカスのライオン(10月)」、「モチモチの木(11月)」、「ゆうすげ村の小さな旅館(3月)」〉

◆誤答から想定される授業

- ・文学的な文章を扱う単元において、「読むこと」の指導事項は意識して指導をしているが、関連する「知識及び技能」の指導や評価が行われていない授業。

☆こんな授業へ

- 人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える際に、様子や行動、気持ちや性格を表す語句を児童が意識して捉えられるように、学習課題や発問を工夫した授業。

【例えば、こんな授業場面において】

例)「モチモチの木」を教材として、人物の行動や気持ちについて叙述を基に捉える授業より。

昼と夜で、モチモチの木に対する豆太の様子は、どのようにちがいますか。

昼の豆太は、いばっています。

夜の豆太は、モチモチの木をおばけみたいに思っているから、おくびょうなままです。

夜はおくびょうなのに昼はいばっているんですね。では、豆太がいばっているのはどの言葉から分かりますか。

会話文の「やい木い、笑い落とせえ！」から分かるね。

「かた足で足がみして」からもいばっている様子が伝わると思うよ。だって…

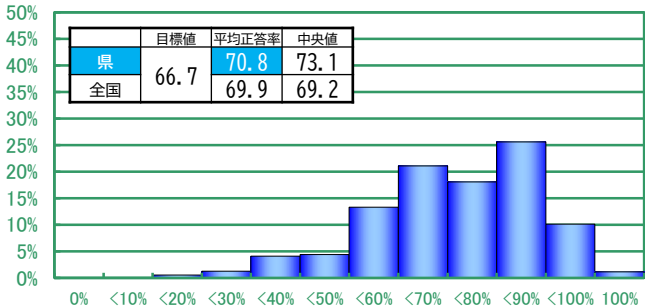
「かた足で足がみをする」とは、どのような様子でしょうか。

- ★捉えさせたい語句に児童の意識が向くように、発言を取り上げたり、動作化させたりしましょう。
- ★年間指導計画から「知識及び技能」に示す事項をどの単元で指導すべきかを確認し、関連する「思考力、判断力、表現力等」に示す事項を通して指導するようにしましょう。
- ★理解したり表現したりするために必要な語句は、辞書や辞典を利用して調べる学習を取り入れるなど、調べる習慣が身に付くようにしましょう。

小学校第4学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	70.8	69.9
	基礎	73.7	72.8
	活用	65.3	64.4
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.4	72.1
	情報の扱い方に関する事項	51.7	46.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.3	87.9
	話すこと・聞くこと	66.3	66.3
	書くこと	78.8	67.7
	読むこと	62.9	64.6
観点	知識・技能	70.9	69.3
	思考・判断・表現	68.3	66.0
	主体的に学習に取り組む態度	71.3	65.0
解答形式	選択	70.3	71.6
	短答	71.2	72.7
	記述	71.4	63.0

★正答率度数分布



成果が見られた問題

- 3 (1) 正答率 82.1% (全国値 76.2%)
主語と述語との関係について理解している。
- 7 正答率 78.9% (全国値 67.7%) (注意する点①～④の平均値)
段落の役割について理解し、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして、指定された長さで文章を書いている。

課題が見られた問題

- 3 (5) 正答率 25.7% (全国値 35.4%)
行動を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。
- 5 (3) 正答率 20.7% (全国値 22.8%)
中心となる語や文を見付けて要約している。

小学校第4学年 国語

継続して課題となった問題

●5(3) (本県 20.7%)

- ・説明文の内容を読み取る際に、中心となる語や文を見付けて要約すること
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

- 【正答】
・完答(県 20.7%)
- 【誤答】
・「ア」(少し忘れてしまう)のみ正しい(県 29.7%)
・「イ」(自分は元気だ)のみ正しい(県 7.6%)
・上記以外の誤答(県 34.7%)
【無答率】(県 7.3%)

誤答例から想定される
授業での児童の姿

要約する際に、段落相互の関係や文章全体の
内容を正確に把握していない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

・R5 全学調 2

～こんな児童の姿へ～

要約の目的に応じて、内容の中心となる語や文
を選んで、要約することができる児童

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 説明的な文章を扱う単元(3・4年C読むこと(1)ウ)
〈光村図書4年上:パンフレットを読もう(9月)〉
〈光村図書4年下:未来につなぐ工芸品(11月)〉
〈東京書籍4年上:広告を読み比べよう(7月)〉
〈東京書籍4年下:くらしの中の和と洋(10月)〉

◆誤答から想定される授業

- ・段落相互の関係や文章全体の内容を正確に把握しないまま、
要約をしようとする授業

☆こんな授業へ

- 目的を意識して要約するために、文章全体の内容を正確
に把握した上で、内容の中心となる語や文を児童自身で
選び、短くまとめる活動を取り入れた授業。

【例えば、こんな授業場面において】

例)光村図書4年「未来につなぐ工芸品」を読み、文章全体の内容
を把握し、中心となる語や文を見付けて要約する授業より。

筆者の考えを友達と伝え合うために要約します。まずは、
中心となる語や文を、表を使って整理しましょう。

【おわり】	【中 ①】	【初め】	まとめ
工芸品をのこすこ とは、文化やげい しゅつ、かんきよう を……	理由1 日本の文化やげい しゅつを、未来につ ないでくれる	工芸品 職人の手で一つ一 つ作られている 工芸品を未来にの こしていきたい	中心となる語や文

・「筆者の考え」を伝えるために要約するのだから、**くり返し
出てくる言葉や、文章の内容の中心となる文**を探して、短く
まとめよう。筆者の考えは「おわり」に……

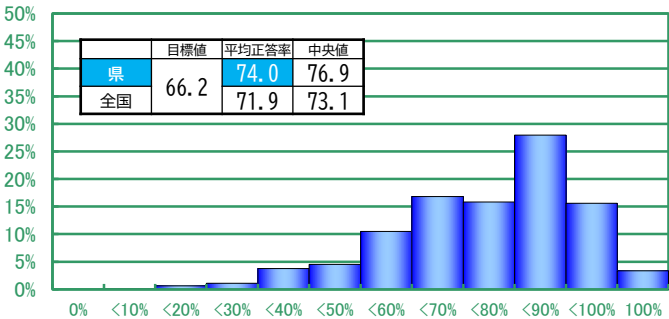
- ★学習課題を設定する際には、「だれに」「何のために」など、児童が**目的
を意識**して要約できるようにしましょう。
- ★説明文を読む際には、段落相互の関係に着目し、**筆者の考えとそれを
支える理由や事例との関係を捉える**ことが重要です。その上で、知・技
(2)アと関連させながら、中心となる語や文を精査していきましょう。

小学校第5学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	74.0	71.9
	基礎	79.0	77.1
	活用	62.7	60.2
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.5	74.2
	情報の扱い方に関する事項	66.6	62.6
	我が国の言語文化に関する事項	75.4	64.5
	話すこと・聞くこと	75.2	78.9
	書くこと	75.0	69.7
	読むこと	66.2	66.5
観点	知識・技能	76.5	72.5
	思考・判断・表現	71.5	70.3
	主体的に学習に取り組む態度	69.9	66.7
解答形式	選択	77.0	76.3
	短答	71.6	69.3
	記述	71.2	66.5

★正答率度数分布

■県



成果が見られた問題

- 3 (1) 正答率 75.4% (全国値 64.5%)
漢字の由来について理解している。
- 6 (2) 正答率 66.6% (全国値 62.6%)
情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。
- 7 正答率 74.8% (全国値 68.4%) 〈注意する点①～④の平均値〉
段落の役割について理解し、資料から読み取った事実と自分の意見を明確にし、指定された長さで書いている。

課題が見られた問題

- 4 (3) 正答率 38.8% (全国値 42.5%)
文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。

小学校第5学年 国語

新たに課題となった問題

●4(3) (本県 38.8%)

- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】	【正答】
・「1」を選択 (県 23.2%)	・「3」を選択 (県 38.8%)
・「2」を選択 (県 24.0%)	
・「4」を選択 (県 12.9%)	
【無答率】 (県 0.5%)	

誤答例から想定される
授業での児童の姿

文学的文章において、中心となる人物の心情や行動の変化の理由を考える際に、場面の移り変わりや登場人物の相互関係などに着目して考えを伝え合うまでには至っていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R6全学調: [3] 二 (1)(2) 三

～こんな児童の姿～

ある人物の心情の変化には、他の人物の行動や互いの関係性の変化が関連していることを理解し、物語を読み深める児童

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 文学的な文章を扱う単元(5・6年C読むこと(1)カ)
〈光村図書5年:大造じいさんとがん(3月)〉
〈東京書籍5年:大造じいさんとがん(11月)〉

◆誤答から想定される授業

- ・登場人物の相互関係や心情について描写を基に捉えたり、全体像や表現の効果を踏まえた上で、考えを伝え合ったりするまでには至っていない授業

☆こんな授業へ

- 単元の目標として掲げた内容について児童が自分の考えを形成するために、中心人物の心情の変化を考える学習を行うにあたり、登場人物の行動や互いの関係性の変化について問うことで考えを深める授業。

【例えば、こんな授業場面において】

例)「大造じいさんとがん」を読み、物語の魅力を伝え合うという単元の目標に向けて、人物の心情の変化を捉える際に、登場人物との関係性の変化に着目して話し合う授業より。

〇〇さんの感想に、『残雪が北へ北へと(中略)見守っていました。』の部分に心に残った」と書かれていました。このときの大造じいさんの気持ちを、これまでの残雪との関係から考えましょう。

初めは、残雪のことを「いまいまましく思っていた」なあ。それが変わったきっかけは、……

山場の場面で残雪が仲間のがんを助けたことは大きな変化だけど、それ以外にも関係が少しずつ変わっているみたい。

大造じいさんの気持ちや行動が変化した場面について、残雪の行動と関係付けてグループで話し合しましょう。

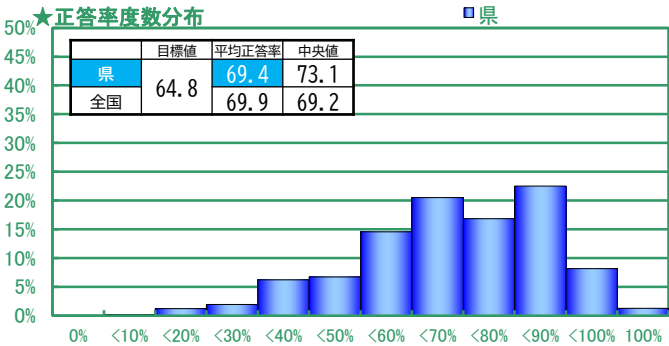
1年目に大造じいさんが「感嘆の声をもらした」のは、残雪のりこうな行動が原因だね。

2年目大造じいさんが考え抜いた作戦を残雪に見破られてしまったよ。残雪に対する大造じいさんの気持ちも少しずつ変わっているね。

★「読むこと」の指導事項(1)力では、文章の構造と内容を把握し、精査・解釈した意見や感想を互いに共有することで、自分の考えを広げることを目指す。そのために、単元の中で指導事項イエオを踏まえた学習を行い、児童が文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることが大切です。

小学校第6学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	69.4	69.9
	基礎	69.7	70.8
	活用	68.7	68.3
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.6	65.4
	情報の扱い方に関する事項	60.3	62.5
	我が国の言語文化に関する事項	40.3	46.9
	話すこと・聞くこと	87.2	88.0
	書くこと	72.9	68.7
	読むこと	69.0	73.8
観点	知識・技能	63.6	63.6
	思考・判断・表現	74.2	74.6
	主体的に学習に取り組む態度	73.5	68.8
解答形式	選択	71.2	74.7
	短答	62.6	62.3
	記述	73.2	69.4



成果が見られた問題

- 3 (4) 正答率 52.9% (全国値 49.2%)
文と文との接続の関係を理解している。
- 7 正答率 80.5% (全国値 73.3%) (注意する点①～④の平均値)
段落の役割について理解し、自分の意見とその理由を明確にし、予想される反論とそれに対する意見を、指定された長さで書いている。

課題が見られた問題

- 3 (3) 正答率 40.3% (全国値 46.9%)
語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。
- 4 (1) 正答率 67.4% (全国値 75.5%)
登場人物の心情について、描写を基に捉えている。

小学校第6学年 国語

継続して課題となった問題

●4(1) (本県 67.4%)

- ・登場人物の心情について、描写を基に捉えること
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】	【正答】
・「1」を選択 (県 2.4%)	・「4」を選択 (県 67.4%)
・「2」を選択 (県 2.9%)	
・「3」を選択 (県 27.3%)	
【無答率】 (県 0.1%)	

誤答例から想定される
授業での児童の姿

文学的文章において、登場人物の心情を考える際に、複数の描写を結び付けて捉えるまでには至っていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R4全学調: [2]ー (1) (2)

～こんな児童の姿へ～

登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などの複数の描写を通して、登場人物の心情を具体的に想像することができる児童。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等 (指導事項)

- 文学的な文章を扱う単元 (5・6年C読むこと(1)イ)
〈光村図書6年: 帰り道(4月)〉
〈東京書籍6年: 風切るつばさ(6月)〉

◆誤答から想定される授業

- ・文学的文章において、登場人物の心情を捉える際に、直接的な描写の他に行動や会話、情景などから暗示させるものなど、複数の描写を結び付けて考えるまでに至っていない授業

☆こんな授業へ

- 登場人物の相互関係や心情などを複数の描写から捉えて、考えを深め合う授業。

【例えば、こんな授業場面において】

例) 東京書籍6年「風切るつばさ」を読み、人物の相互関係や心情の変化について、複数の描写を基に考えを深め合う授業より。

みなさんの感想の中に、「どうしてカララは飛べなくなったクルルのとなりでじっとだまっているだけだったのか」というものがありました。このときのカララの心情はどこに表れていますか。

人物の心情は行動や会話から分かるけど…

クルルの気持ちならたくさん書かれているけど。カララの心情が直接書かれているところは…

カララの心情が直接的に書かれているところが少ないならば、どうしたらよいでしょうか。

カララがクルルをどう思っていたのかは、クルルの行動から想像できそう。

クルルは、みんなから責められて一人ぼっちだったよ。

そういえば、カララは体が弱くて、クルルからえさをもらっていたよね。

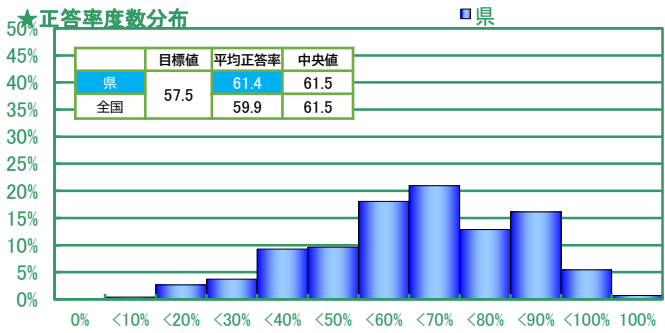
きっとカララは、クルルに対して「すまない」と思っていたんだよ。だからじっととなりで…

登場人物同士の関係やお互いの行動からも心情を捉えることができそうですね。他にもカララの心情が想像できる描写を探してみましょう。

- ★登場人物の心情は、直接的な描写以外に、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されたものから想像することができます。
- ★複数の描写を通して登場人物の相互関係や心情を捉えることが、人物像や物語の全体像を具体的に想像することにつながります。

中学校第1学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	61.4	59.9
	基礎	68.9	68.2
	活用	47.2	44.2
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.3	69.4
	情報の扱い方に関する事項	35.9	35.2
	我が国の言語文化に関する事項	76.4	78.1
	話すこと・聞くこと	59.8	59.4
	書くこと	58.0	49.1
	読むこと	53.3	55.5
観点	知識・技能	63.5	64.4
	思考・判断・表現	56.6	53.4
	主体的に学習に取り組む態度	58.0	49.1
解答形式	選択	54.9	55.7
	短答	69.7	71.4
	記述	60.8	50.5



成果が見られた問題

7 正答率 71.7%（全国値 57.3%）〈正答条件の平均値〉
資料から読み取った内容や自分の考えを明確にして、
指定された条件で文章を書いている。

課題が見られた問題

- 2 正答率 78.0%（全国値 80.4%）〈6問の平均値〉
漢字を正しく読んだり書いたりしている。
- 5（1）正答率 53.2%（全国値 57.0%）
登場人物の心情について、描写を基に捉えている。
- 5（2）正答率 72.6%（全国値 77.9%）
登場人物の相互関係について、描写を基に捉えている。

中学校第1学年 国語

継続して課題となった問題

- 5(2)（本県 72.6%）
・文学的な文章において、登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・「2」……を選択（県 5.6%）
・「3」……を選択（県 8.0%）
・「4」……を選択（県 13.2%）
【無答率】（県 0.6%）

【正答】
・「1」……を選択（県 72.6%）

誤答例から想定される
授業での生徒の姿

文章の内容を把握する際に、細部の描写などに着目せず、
物事の様子や場面、行動や心情の変化などを捉えている。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R4 県学調: 中学1年 5(1)(2)(3)
・R5 県学調: 中学1年 5(1)(2)(3)

～こんな生徒の姿へ～

描写を基に、場面の展開や登場人物の相互関係を捉えたり、
心情の変化などを把握したりする生徒

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等（指導事項）

○文学的な文章を扱う単元（1年C読むこと(1)イ）
〈光村図書1年:「シンジュン」(4月)、「大人になれなかった弟たちに……」(9月)、「星の花が降るころに」(9月)、「蓬萊の玉の枝—『竹取物語』から」(11月)〉
〈東京書籍1年:「飛べ かもめ」(5月)、「さんちき」(5月)、「月夜の浜辺」(10月)、「わたしの中にも」(3月)〉

◆誤答から想定される授業

・人物の行動や心情の変化などを捉えるに当たり、人物の行動や情景を現す描写などに生徒が着目するまでには至っていない授業

☆こんな授業へ

○描写に着目して、場面の展開や登場人物の相互関係を捉えたり、登場人物の心情がどのように変化しているかを把握したりしていく授業

【例えば、こんな授業場面において】

例) 光村図書1年「大人になれなかった弟たちに……」を読み、描写を基に、登場人物の相互関係や心情の変化を捉える授業より。

疎開先に向かう場面にある「美しい青空、桃の花が咲く山村、橋の上からはあゆの泳ぐのが見られます。生まれて初めて見る、それは桃源郷でした。」の描写から読み取れる「僕」の気持ちを考えましょう。

「美しい」という描写は、前の場面で「母の顔」を表現するときにも使われていたね。その時と同じ気持ちと考えていいかな。



「桃源郷」の意味を調べてみてはどうか。この場面の「僕」の気持ちを読み取るヒントになりそうだね。



登場人物の心情は、人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もあります。場面、会話、行動、心情などの変化を丁寧に捉えてみましょう。

★登場人物を確認し、人物関係図等で人物の関係を整理しましょう。

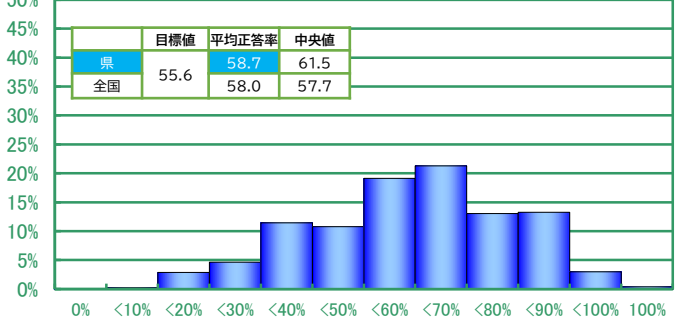
★場所や時間を表す表現を押さえながら、場面の展開を整理し、人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などの変化を丁寧に捉えられるように指導しましょう。

★語句の意味を調べ、辞書にある様々な意味から、文脈上の意味を考えましょう。

中学校第2学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	58.7	58.0
	基礎	63.2	63.1
	活用	50.4	48.3
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.0	73.9
	情報の扱い方に関する事項	22.1	20.7
	我が国の言語文化に関する事項	42.4	39.9
	話すこと・聞くこと	62.2	64.8
	書くこと	55.7	48.3
	読むこと	48.4	50.7
	知識・技能	58.8	59.4
観点	思考・判断・表現	54.1	52.3
	主体的に学習に取り組む態度	50.3	42.8
解答形式	選択	61.4	63.5
	短答	59.7	60.6
	記述	52.3	43.5

★正答率度数分布



成果が見られた問題

- 7 正答率 60.5%（全国値 48.4%）〈正答条件の平均値〉
意見文から読み取った内容や自分の考えを明確にして、指定された条件で文章を書いている。

課題が見られた問題

- 2 正答率 69.0%（全国値 70.4%）〈6問の平均値〉
漢字を正しく読んだり書いたりしている。
- 4 (2) 正答率 66.9%（全国値 71.6%）
文章の構成や論理の展開について考えている。
- 5 (1) 正答率 63.8%（全国値 68.5%）
登場人物の言動の意味について考えて、内容を解釈している。

中学校第2学年 国語

継続して課題となった問題

- 5(1) (本県 63.8%)
・文学的な文章において、登場人物の言動の意味について考えて、内容を解釈すること
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】
・「2」……を選択 (県 18.1%)
・「3」……を選択 (県 10.4%)
・「4」……を選択 (県 7.1%)
【無答率】 (県 0.6%)

【正答】
・「1」……を選択 (県 63.8%)

誤答例から想定される
授業での生徒の姿

登場人物の言動の意味について、それが話の展開などにどのようにかかわっているかを、本文に即して解釈していない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R3 県学調: 中学2年 5(1) (2) (3)
・R5 県学調: 中学2年 5(1) (2) (3)
・R5 「くまナビ評価問題」(中学校国語「読むこと」)

～こんな生徒の姿へ～

文学的文章において、話の展開や場面の状況を踏まえて、登場人物の言動の意味について考え、心情や人物像を読み取ることができる生徒

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 文学的な文章を扱う単元(2年C読むこと(1)イ)
〈光村図書2年:「盆土産」(9月)、「走れメロス」(1月)〉
〈東京書籍2年:「辞書に描かれたもの」(6月)「走れメロス」(12月)〉

◆誤答から想定される授業

- ・文学的な文章において、登場人物の言葉や行動と話の展開の関わりを考えて、文章を解釈するまでに至っていない授業

☆こんな授業へ

- 各場面の状況や話の展開を踏まえて、登場人物の言葉や行動の意味を考えて、心情や人物像を読み取る授業

【例えば、こんな授業場面において】

例) 光村図書2年「盆土産」を読み、話の展開の中で登場人物の言葉や行動の意味を考えて、人柄や心情を考える授業より。

父親が帰省した場面では、眠りを寸断してドライアイズで冷やし続けた父が描かれていたね。

出稼ぎに出ている父親からの速達には、「土産は、えびフライ。」と書かれていましたが、父親はなぜ、土産にえびフライを選んだのでしょうか。

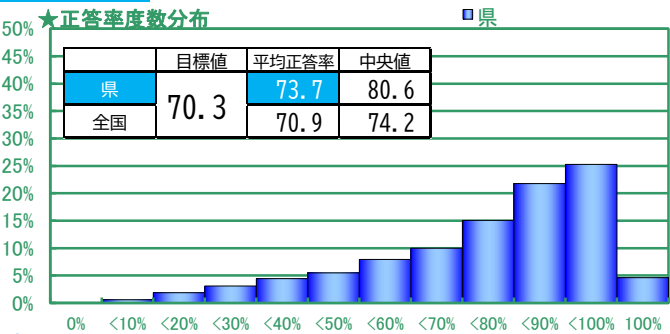
夕飯の場面では、家族4人で6尾のえびフライを味わう様子が描かれているけど、なぜ、父親は4人に対してえびフライを6尾にしたのだろう。

各場面の父親の言葉や行動から読み取れる父親の人柄や心情について考えましょう。父親の言動を根拠に、自分の考えとその理由をまとめましょう。

- ★各場面の内容について、時、場所、出来事などを整理しましょう。
- ★登場人物の様子が描かれている表現を抜き出し、それを根拠に、そこから読み取れる人柄や心情についてまとめていきましょう。
- ★各場面では登場人物の言葉や行動が、話の展開にどのように関わっているかを考え、自分の解釈の理由と根拠を挙げてまとめていきましょう。

小学校第3学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	73.7	70.9
	基礎	78.3	75.7
	活用	62.6	58.9
領域	数と計算	71.3	68.2
	図形	82.2	80.2
	変化と関係	79.7	77.4
	データの活用	74.3	71.7
観点	知識・技能	78.5	76.0
	思考・判断・表現	60.0	56.2
	主体的に学習に取り組む態度	68.7	65.5
解答形式	選択	75.9	73.5
	短答	75.9	72.8
	記述	42.2	38.5



成果が見られた問題

17(2) 正答率 54.2% (全国値 46.2%)
文章問題を解くために立式した除法の式から、あまりの処理をして、正しい答えを求めている。

3(3) 正答率 92.0% (全国値 89.5%)
2けた÷1けた＝1けた(余りなし)の計算ができる。

課題が見られた問題

7 正答率 75.1% (全国値 77.5%)
乗法の式に合った文章問題を選ぶことができる。

17(3) 正答率 31.5% (全国値 29.2%)
8つの植木ばちを、ベランダ並べることができるかを判断し、説明している。

10 正答率 48.1% (全国値 45.1%)
()を用いて1つの式に表した3つの数の乗法について、場面に合う式を選んでいる。

小学校第3学年 算数

継続して課題となった問題

●10(本県 48.1%)

- ・数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること

に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答】

- ・「4」 $(60 \times 3) \times 2$ を選択(県 48.1%)

【誤答】

- ・「1」 $60 \times (2 \times 3)$ を選択(県 13.9%)
- ・「2」 $(3 \times 2) \times 60$ を選択(県 15.7%)
- ・「3」 $(60 \times 2) \times 3$ を選択(県 20.0%)

【無答率】(県 2.1%)

誤答例から想定される授業での児童の姿

()を用いた式について、問題場面と式とを結び付けられていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H25県学調:小学3年9
- ・R5全学調:小学6年3

～こんな児童の姿～

数量の関係に着目し、問題場面に適した図や式を表している児童

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○乗法(A(3)イ(ア))
〈東京書籍3年上:かけ算の筆算(1)(10月)〉
〈啓林館3年下:計算のじゅんじょ、式と計算(11月)〉

◆誤答から想定される授業

- ・計算のきまり等の計算技能の習得に重きが置かれている授業
- ・問題場面を式に表したり、式から具体的な場面を考えたりする活動が不十分な授業

☆こんな授業へ

- 問題場面を図に表した上で、()を使って一つの式に表す授業
- 自分や友達の考えを図や式に表したり、言葉で説明したりする授業

【例えば、こんな授業場面において】

例)自分の考えを説明するだけでなく、友達の考えについて式や図を基に説明する。

T:1個95円のおかしが1箱に2個入っています。5箱買うと、代金はいくらになりますか。図に表して考えましょう。

A:私は、まずは1箱分の代金を求めて、その後、5箱分の代金を求めました。図は下のとおりです。

●● ●● ●● ●● ●●

T:Aさんは、どのような式になったと思いますか?

B:Aさんは、1箱分の代金をもとのため、
 $95 \times 2 = 190$ $190 \times 5 = 950$ だと思います。
()を使った1つの式にすると、 $(95 \times 2) \times 5 = 950$ です。

A:そうです。Bさんはどんな式になったの?

B:私は、 $95 \times (2 \times 5) = 950$ という式になりました。

T:Bさんは、どのように考えたと思いますか?

A:最初におかしの数を調べてから、代金をもとんだね。

B:考え方が違うと、式も違うんだね。でも、3つの数をかけるときは、かける順序を変えても答えは変わらないね。

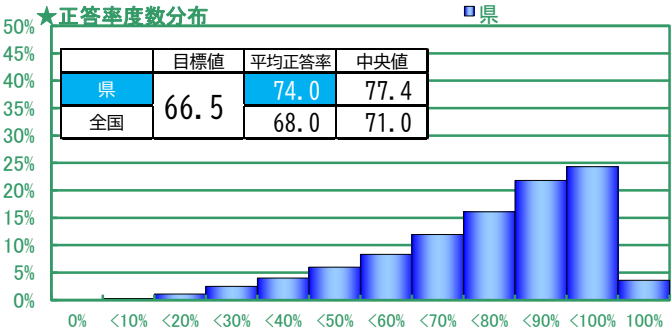
自分の考えだけでなく、友達の考えを図や式に表したり言葉にしたりすることで、問題場面と式とを結び付けることにつながります。



小学校第4学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	74.0	68.0
	基礎	76.5	70.9
	活用	67.9	60.9
領域	数と計算	76.9	70.4
	図形	65.4	61.4
	変化と関係	79.4	70.9
	データの活用	77.2	69.4
観点	知識・技能	77.1	71.8
	思考・判断・表現	67.5	59.9
	主体的に学習に取り組む態度	60.5	53.8
解答形式	選択	76.7	69.8
	短答	76.0	71.1
	記述	39.5	32.3

★正答率度数分布



成果が見られた問題

- 7 正答率 77.7%（全国値 61.8%）
2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べている。
- 1(2) 正答率 91.4%（全国値 89.0%）
10倍にした数を求めることができる。

課題が見られた問題

- 11 正答率 76.8%（全国値 82.9%）
分度器の中に示された角の大きさを読み取ることができる。
- 16(3) 正答率 21.6%（全国値 22.6%）
平行四辺形の性質をもとに、できた四角形が平行四辺形であることを説明している。

小学校第4学年 算数

継続して課題となった問題

- 16(3)(本県 21.6%)
- 平行四辺形、ひし形、台形について知ること
 - 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すことに課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

- 【正答】
- 向かい合った2組の辺が平行であることをもとに説明（県13.0%）
 - 向かい合った角の大きさをもとに説明（県8.5%）
- 【考えられる誤答】
- 平行四辺形ではなく、ひし形と判断している。
 - 辺の位置関係（向かい合った辺）を説明できていない。
 - 2組の辺が平行であることを説明できていない。
- 【無答率】（県 5.6%）

誤答例から想定される
授業での児童の姿

図形を構成する要素及びそれらの関係に着目できていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- H27全学調:小学6年B1
- R4全学調:小学6年4(4)

～こんな児童の姿へ～

図形を構成する要素及びそれらの関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだす児童

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等（指導事項）

- 平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形(B(1)イ(ア))
〈東京書籍4年下:垂直、平行と四角形(11月)〉
〈啓林館4年上:垂直・平行と四角形(6月)〉

◆誤答から想定される授業

- ・作図等の技能が形式的な習得にとどまっている授業
- ・児童が、図形を構成する要素や位置関係に十分に着目していない授業

☆こんな授業へ

- 図形を構成する要素や位置関係に十分に着目しながら構成の仕方を考察する授業
- 図形を構成する要素や位置関係に着目した上で、図形の意味や性質を基に作図の仕方を考える授業

【例えば、こんな授業場面において】

例) 平行四辺形の作図の際に、図形を構成する要素や位置関係に着目しながらかき方を考える。

T:今日は平行四辺形をかきましょう。

C:辺ABと辺BCはかけたよ。これからどのようにかけばいいのかな？

C:ぼくは、三角定規を2枚使って続きをかきました。

T:どうして三角定規を2枚使ってかこうと思ったのですか？

C:平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、辺BCに平行な辺を、頂点Aをとるようにかこうと思ったからです。

C:なるほど。だったら、平行四辺形の向かい合う辺は2組あるから、もう1組の辺も、三角定規2枚でかけそうだな。

C:わたしは、コンパスを使ってかいたよ。

C:コンパスでもできるの？なぜコンパスを使おうと思ったの？

C:平行四辺形は、向かい合う辺の長さが等しくなるという特徴があったでしょ。その特徴を使おうとしたんだよ。

C:なるほど、コンパスで頂点Aから5cmのところと、頂点Cから4cmのところを調べればよさそうだな。僕もやってみよう。

C:平行四辺形の特徴を基に、かき方を考えるんだね。

かき方の理解だけを目指すのではなく、構成する要素や位置関係を根拠としながら作図できる理由を表現することで、図形を捉え直すことにもつながります。



小学校第5学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	66.7	62.2
	基礎	72.3	68.2
	活用	54.9	49.8
領域	数と計算	66.0	61.7
	図形	76.1	74.2
	変化と関係	51.6	44.0
	データの活用	63.0	52.9
	知識・技能	73.0	69.0
観点	思考・判断・表現	58.0	52.8
	主体的に学習に取り組む態度	51.6	44.3
解答形式	選択	70.0	65.8
	短答	67.2	63.0
	記述	39.8	31.6

小学校第5学年 算数

継続して課題となった問題

●15(1)(本県 39.6%)

- 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること
- 小数の乗法及び除法の計算ができること、また、余りの大きさについて理解すること

に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答】

- 4÷3.2=1.25 1.25倍(県39.6%)

【考えられる誤答】

- 除数と被除数の関係がつかめておらず、正しく立式できていない。
(3.2÷4=0.8)
- 小数点の処理を間違えている。
(0.125 125など)

誤答例から想定される授業での児童の姿

- 問題場面から基準量と比較量を正しく捉えられておらず、正しく立式できていない。
- 正しく処理できていない。

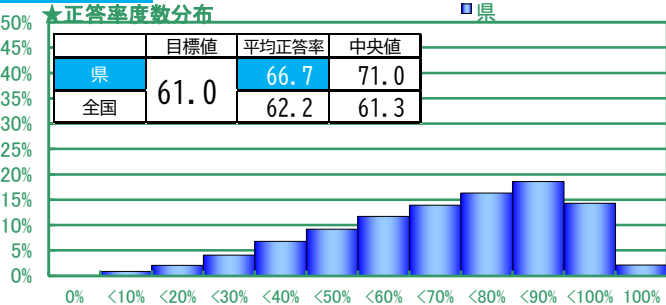
改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- R6「くまナビ評価問題」(小学校算数「小数倍」)
- R3全学調:小学6年4(3)
- H28県学調:小学5年3

～こんな児童の姿へ～

除法の意味に着目し、基準量と比較量の関係を基にして、小数を用いた倍の意味を正しく理解している児童



成果が見られた問題

4 正答率 73.1% (全国値 57.1%)
小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解している。

12 正答率 91.7% (全国値 85.6%)
3辺の長さを使って、合同な三角形を作図することができる。

課題が見られた問題

3(4) 正答率 83.7% (全国値 89.6%)
真分数+真分数=真分数で、片方の分母にそろえる通分をする計算(約分あり)ができる。

15(3) 正答率 14.6% (全国値 12.0%)
厚さ5.4cmの辞書を、幅90cmの本棚に何冊並べることができるかを説明している。

15(1) 正答率 39.6% (全国値 31.6%)
植物図鑑の厚さが、動物図鑑の厚さの何倍になっているかを求めることができる。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○小数の乗法、除法(A3ア(イ))
〈東京書籍5年上:小数のわり算 小数の倍(6月)〉
〈啓林館5年:小数のわり算 割合(6月)〉

◆誤答から想定される授業

- 基準量と比較量との関係を明らかにしないまま、除法を用いて計算を行っている授業
- 筆算時における小数点の処理について、形式的な方法にとどまってしまう授業

☆こんな授業へ

○問題場面や数量の関係を数直線などを用いて整理し、基準量と比較量を明らかにする授業

○除法を行う意味を理解した上で、立式や計算を行う授業

【例えば、こんな授業場面において】

例)場面を図に整理し、図や式などを用いて数量の関係を調べる。

T:赤のテープの長さは50cm、青のテープの長さは40cmです。青のテープの長さは赤のテープの長さの何倍ですか。

C:50÷40か40÷50だと思うけど分からないなあ。

C:赤のテープの方が長いから、答えは1より小さくなるはずだね。

C:だったら、40÷50が正しいのかな?

C:図にかいてみると分かると思うよ。

C:どっちが1に当たる大きさかな?

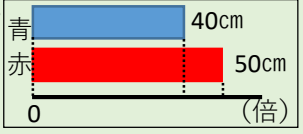
C:今回調べたいのは、赤のテープの長さをもとにしたときの青のテープの長さだから、赤が基準の1。

C:ということは、50cmの何倍かを求めればよさそうね。式にすると50×□=40だから、□を求めるためには、40÷50の計算をすればいいね。

T:赤のテープの長さの何倍かを今から計算しますが、基準の1よりも大きくなりそうですか。それとも小さくなりそうですか。

C:青のテープの長さは1よりも少し小さい数になりそうだね。

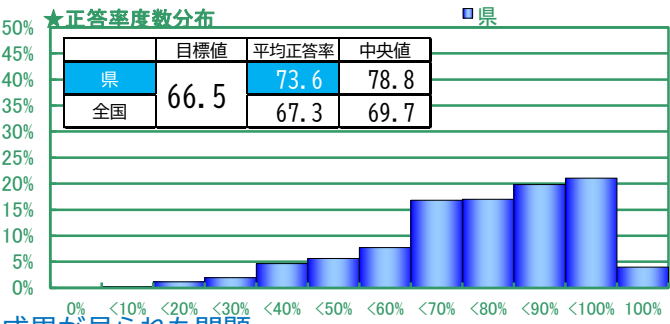
T:それでは、わり算の計算をして何倍になるかを調べましょう。



図に整理することで、基準量や比較量が明らかになります。また、図を基に立式することで、商の見通しまでもつことにつながります。

小学校第6学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	73.6	67.3
	基礎	77.0	71.2
	活用	65.9	58.4
領域	数と計算	78.4	72.2
	図形	73.3	67.0
	変化と関係	56.2	47.7
	データの活用	70.7	66.9
観点	知識・技能	76.7	70.7
	思考・判断・表現	62.3	54.7
	主体的に学習に取り組む態度	65.8	59.4
解答形式	選択	71.3	65.5
	短答	79.6	73.0
	記述	38.9	31.5



成果が見られた問題

6(1) 正答率 61.9% (全国値 43.6%)
分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる。

3(1) 正答率 94.1% (全国値 92.7%)
真分数×真分数（約分なし）の計算ができる。

課題が見られた問題

10(2) 正答率 88.1% (全国値 89.6%)
点対称な図形の、対応する2つの点を結んだ直線の長さについて理解している。

14(1) 正答率 34.3% (全国値 27.5%)
比を使って、一方の量から他方の量を求めている。

小学校第6学年 算数

継続して課題となった問題

●14(1) (本県 34.3%)

- ・日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと

に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答】

・ $3:5=x:150$ $x=3\times30$
 $=90$ (県 34.3%)

【考えられる誤答】

- ・簡単な比で表すことができない。
- ・ x を使った比を表すことができていない。
- ・等しい比から x を求めることができていない。

【無答率】(県 5.8%)

誤答例から想定される授業での児童の姿

日常の事象における数量の関係を比で表現したり等しい比をつくったりできていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H28県学調:小学6年9(1)
- ・H30県学調:小学6年6(1)

～こんな児童の姿へ～

日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係を比で比べる児童

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 比(C(2)イ(ア))
〈東京書籍6年:比(7月)〉
〈啓林館6年:比とその利用(10月)〉

◆誤答から想定される授業

- ・図を用いた比の意味理解が十分に行われていない授業
- ・日常の事象と関連付けられていない授業

☆こんな授業へ

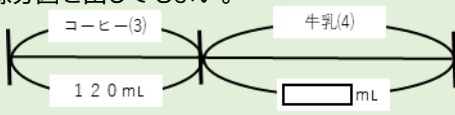
- 図や式などを用いて数量の関係同士を比べる授業
- 日常生活において、比によって数量の関係を表現している事象を取り上げ、比で表現したり、等しい比をつくったりする授業

【例えば、こんな授業場面において】

例) 場面を図に整理し、図や式などを用いて数量の関係を調べる。
問: コーヒーと牛乳の量の比を3:4にして、コーヒー牛乳を作ります。コーヒーを120mL使うとすると、牛乳は何L使いますか。
T: 問題場面を図に表してから問題に答えましょう。
※比の学習で線分図を扱う時間は限られているため、実態に応じて教師から線分図を出してもよい。

C: 図に表すと、
120mLと□mL
が3:4になっていることが分かるね。

C: 牛乳の量をxとすると、 $3:4=120:x$ で表せるよ。
C: $3:4$ と $120:x$ は等しい比だから、何倍になっているかを考えれば分かりそうだね。
C: $120\div3=40$ だから、3を40倍していることになるね。
C: 同じように4も40倍すればよさそうだね。
この関係が分かっていると、いつでも同じ味でコーヒー牛乳が作れそうだ。



$3:4 = 120:x$

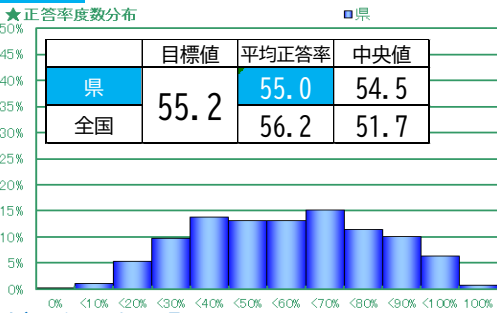
$\times 40$

分かっていることや考えたことを線分図や比に書き込み、それらを使った説明を促すことで、数量の関係がより明らかになります。



中学校第1学年・数学の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	55.0	56.2
	基礎	59.7	61.3
	活用	42.9	42.6
領域	数と式	59.7	59.7
	図形	71.7	72.6
	関数	43.3	44.7
観点	知識・技能	58.5	60.1
	思考・判断・表現	44.5	44.1
	主体的に学習に取り組む態度	44.7	44.3
解答形式	選択	63.4	67.1
	短答	49.9	48.2
	記述	29.4	29.5



成果が見られた問題

- 3 正答率 76.9% (全国値 73.4%)
素因数分解ができる。
- 8 正答率 72.1% (全国値 65.4%)
比例式を解くことができる。

課題が見られた問題

- 1 1 (1) 正答率 37.4% (全国値 41.2%)
比例のグラフから、 x と y の関係を表した式を選ぶことができる。
- 1 1 (3) 正答率 42.1% (全国値 47.2%)
比例の式から、そのグラフ上にある点を選ぶことができる。
- 1 7 (1) 正答率 11.6% (全国値 12.5%)
与えられた情報から正しい座標を求めることができる。

中学校第1学年 数学

継続して課題となった問題

- 17(1) (本県 11.6%)
・与えられた情報から正しい座標を求めること
- に課題が見られます。
- ※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

- 【正答例】
(3, 5, 1)
- 【誤答】
・類型外誤答(県 77.5%)
【考えられる誤答】
・(3, 5) ※グラフのみを見て判断している。
- 【無答率】(県 10.9%)

誤答例から想定される
授業での生徒の姿

- ・問題文から題意を読み取ることができておらず、表またはグラフのみを見て、変化の様子を捉えている。
- ・表とグラフの関係性や、表中の x 及び y の値とグラフ上の点の座標との対応を捉えることができていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R4全学調: 中学校3年8
- ・R3全学調: 中学校3年7

～こんな子供の姿へ～

題意を読み取り、表、式、グラフ等の関係に関連付けながら変化や対応の特徴を捉えたうえで、問題解決のために表、式、グラフを用いようとする生徒

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 比例、反比例(C(1)ア(ウ)(エ)、イ(ア)(イ))
〈東京書籍1年: 比例と反比例(10月)〉
〈啓林館1年: 変化と対応(10月)〉
〈大日本図書1年: 量の変化と比例、反比例(10月)〉

◆誤答から想定される授業

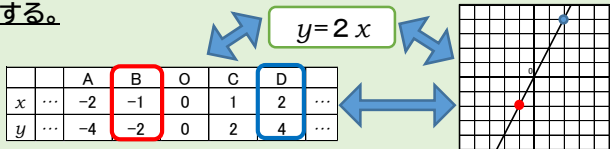
- ①生徒が題意を丁寧に読み取らずに、問題解決に向かう授業
- ②生徒が比例の式や、表中の変数の値とグラフ上の点の座標との対応等について捉えたり、表現したりする活動が十分ではない授業

☆こんな授業へ

- 生徒が題意を読み取った上で、表、式、グラフと関連付けながら、変化や対応の特徴について表現する場面を設けた授業

【例えば、こんな授業場面において】

- 例) ◆誤答から想定される授業②に関して
→グラフまで学習した後に、次のような活動を取り入れる。
- ・表とグラフを関連付けて、変数の値と点の座標を捉える活動
 - ・比例定数が表、式、グラフのどこに表れるかを説明する活動
- 表、式、グラフを相互に関連付けて、変化や対応の特徴を表現する。



- C1: グラフ上の赤い点の座標は、表ではBに対応しているね。
- C2: 確かに表もグラフも、 x がー1のとき、 y がー2だね。
- T: では、比例定数はわかりますか。
- C3: わかります。2だと思います。
- C1: どうして分かったの？
- C3: 式を見たよ。 x の係数部分に表れるから2だよ。
- T: そうですね。では比例定数は表やグラフではどこに表れますか。
- C4: グラフでは・・・

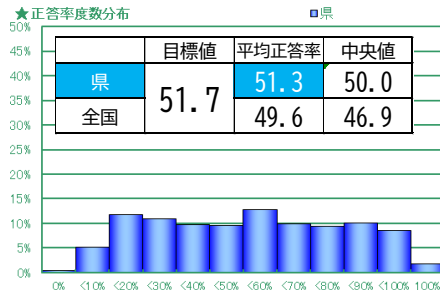
★単元の中で、実態に応じて、小学校での学習内容を振り返る場面や、生徒の定着状況によっては、表やグラフの対応する部分を色分けするなど提示の工夫も大切です。



中学校第2学年・数学の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	51.3	49.6
	基礎	56.7	55.1
	活用	35.8	33.1
領域	数と式	48.4	44.6
	図形	59.8	59.8
	関数	50.9	50.0
観点	知識・技能	57.5	56.0
	思考・判断・表現	36.3	33.4
	主体的に学習に取り組む態度	35.8	33.1
解答形式	選択	55.0	55.9
	短答	50.4	47.1
	記述	37.1	30.7

★正答率度数分布



成果が見られた問題

- 2 (1) 正答率 73.1% (全国値 67.8%)
多項式の同類項をまとめる計算ができる。
- 2 (2) 正答率 61.3% (全国値 54.5%)
単項式の乗法と除法の混じった式の計算ができる。

課題が見られた問題

- 4 正答率 41.2% (全国値 52.9%)
与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式することができる。
- 8 (2) 正答率 45.2% (全国値 47.8%)
グラフの切片と、1点の座標から1次関数の式を求めることができる。
- 16 (3) 正答率 24.9% (全国値 18.7%)
文字を使った式から、どのような形で囲んだかを表現することができる。

中学校第2学年 数学

継続して課題となった問題

- 4 (本県 41.2%)
与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式すること
に課題が見られます。
※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答例】

2

【誤答】(県 58.2%)

【誤答例】1 (県37.8%) 3 (県15.0%) 4 (県5.4%)

※1について:割合の意味を捉えることができていない。

※3、4について: 昨年の人数の関係を捉えることができていない。

【無答率】(県 0.7%)

誤答例から想定される授業での生徒の姿

- 問題解決のために着目する必要がある数量の関係を問題文の中から見いだすことが難しい。
- 与えられた連立二元一次方程式の意味を読み取ったり、表現したりすることができていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- R5「くまナビ評価問題」(中学校数学「連立方程式」)
- H30全学調: 中学校3年「数学A」3(4)

～こんな生徒の姿へ～

文章題や表から数量の関係を捉え、特定の2つの変数の関係に着目して連立方程式をつくり、問題解決に生かそうとしている生徒

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○連立二元一次方程式(A(2)イ(ア)(イ))

〈東京書籍2年:連立方程式(6月)〉

〈啓林館2年:連立方程式(6月)〉

〈大日本図書2年:連立方程式(6月)〉

◆誤答から想定される授業

- ①問題を解決する際に、解決に必要な数量の間の関係を、生徒が見いだすことができていない授業
- ②与えられた方程式が表している数量の間の関係や、式の意味について表現する活動が十分ではない授業

☆こんな授業へ

○問題の中から相等関係にある数量を見いだして、連立二元一次方程式を活用して問題を解決したり、その過程を説明したりする活動を取り入れた授業

【例えば、こんな授業場面において】

例)◆誤答から想定される授業①②に関して

→連立方程式を立式して問題を解決する際に、次のような活動を取り入れる。

- 問題文に含まれる数量(例えば、人数や代金の増減を割合を使って表しているもの等)を捉え、生徒が説明する活動
- ※実態に応じて、数量の間の関係を表や線分図などで表す。

○代金(定価と割引き価格)に関する問題を解決する際に、連立方程式の立式に必要な数量の表し方を表現する。

C1: 定価x円の3割引きの価格は、どう表すことができるのかな。

C2: 0.7x円と表すことができると思うよ。

C1: どうして0.7とxをかけるの? わからないな。

T: C2さんの考え方を説明しましょう。(他の生徒にも表現を促す等)

C3: 3割は定価の0.3倍を表すから、3割引きだと1-0.3で、定価x円を0.7倍して0.7x円と表すことができるからです。

C1: なるほど。じゃあ、もう一方の定価y円の1割引きの価格は0.9y円と表すことができるんだね。

C4: 割引き価格の関係からも式をつくることができそうだね。

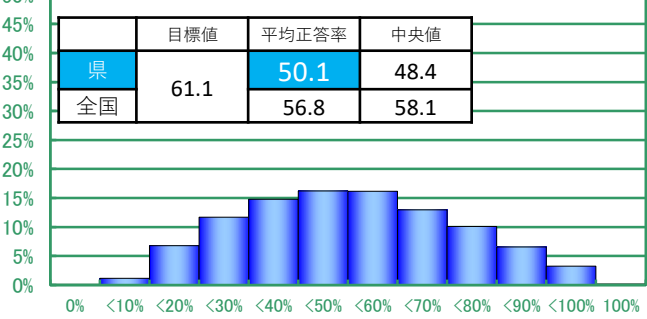
★数量の間の関係を捉えることや、数量を数学的に表現することができているかスモールステップで見取り、必要に応じて既習事項を振り返る場面等を設けることが大切だ。



中学校第1学年・英語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	50.1	56.8
	基礎	53.5	61.0
	活用	42.8	48.1
領域	聞くこと	59.0	64.3
	読むこと	48.6	59.8
	書くこと	44.4	45.5
観点	知識・技能	57.4	65.8
	思考・判断・表現	42.2	47.2
	主体的に学習に取り組む態度	30.1	32.6
解答形式	選択	57.0	66.3
	短答	41.6	44.2
	記述	33.8	35.6

★正答率度数分布



成果が見られた問題

10 正答率 68.4% (全国値 62.5%)
自分が好きな季節について、相手に伝えるように書いている。(季節の紹介)

課題が見られた問題

5 (1) ① 正答率 52.2% (全国値 71.3%)
対話文を読み、文構造や文法構造を理解している。
(人称代名詞【主格】)
5 (1) ② 正答率 17.3% (全国値 50.2%)
対話文を読み、文構造や文法構造を理解している。
(主語が複数の場合の一般動詞の疑問文)

中学校第1学年 英語

継続して課題となった問題

- 5(1) ② (本県 17.3%)
・対話文を読み、文構造や文法事項を理解することに課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答】(県 17.3%)

1 (Do) Atsushi and Taku play baseball?

【誤答】

- 2 (Does) Atsushi and Taku play baseball? (61.8%)
3 (Is) Atsushi and Taku play baseball? (12.7%)
4 (Are) Atsushi and Taku play baseball? (8.0%)

【無答率】(県 0.2%)

誤答例から想定される
授業での生徒の姿

英文の主語と動詞が正確に捉えられていない。複数主語における一般動詞の疑問文の用法を理解できていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R5県学調: 中学1年5(1)④ 26.5%
・R4県学調: 中学1年5(1)① 38.4%

～こんな生徒の姿へ～

動詞の用法等を理解した上で、目的や場面、状況に応じて、適切に表現している生徒

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○自分や身近な人やものについて尋ねたりする。

◆誤答から想定される授業

・A and B が主語になる場合の一般動詞の用法等を理解したり、正しい活用ができるようになるまで練習したり自己表現したりするための活動が不足している授業。

☆こんな授業へ

- 言語活動を通して知識及び技能を活用する中で、主語と動詞に着目させ、正しい用法を確認するなど言語面での指導を行う。
○一般動詞を中心に扱う単元の終末には、A and Bが主語になる場合も含めて文法的事項をおさえる。
○学んだことを活用する場面を通して定着を図る。

【例えば、こんな授業場面において】

(帯活動で)身近な話題について、Small TalkやQ&A等を通して、一般動詞の用法等を正しく理解し、活用できるようにする。

帯活動における文法事項等の指導

★中間指導において間違えやすい箇所は、全体で意図的・継続的・徹底して指導する

(指導のポイント)

- 誤答は生徒と共有し、なぜ間違いなのかを生徒に気付かせる。
生徒が用法を正しく理解し、練習する場面を設定する。
○教科書やICT等を使用して、学んだ表現を活用できるようになるまで練習する時間を確保する。

※基礎的・基本的事項の習得にはパターンプラクティスも大切!

★個々ができるようにするまで見届けることが重要です

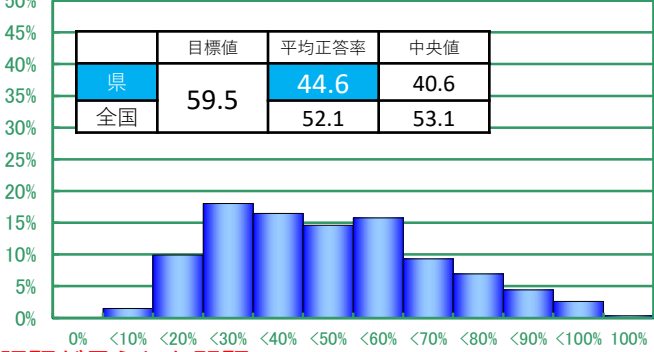
(単元終末で)

単元内の言語活動を通して学んだ新たな表現や文法事項等について、学習内容を整理する時間を設定する。また、適用問題や、単元テスト等により、生徒一人一人の定着状況を確認し、指導に生かす。

中学校第2学年・英語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	44.6	52.1
	基礎	49.4	57.9
	活用	35.6	41.1
領域	聞くこと	47.4	54.5
	読むこと	48.1	57.0
	書くこと	36.5	42.1
観点	知識・技能	52.1	62.3
	思考・判断・表現	37.1	41.9
	主体的に学習に取り組む態度	28.6	32.8
解答形式	選択	50.4	59.1
	短答	42.2	49.4
	記述	28.6	32.8

★正答率度数分布



課題が見られた問題

- 8 (1) 正答率 47.1% (全国値 63.6%)
スピーチを読み、下線部itが指す内容を理解している。
- 8 (2) 正答率 36.8% (全国値 53.8%)
スピーチを読み、その内容を理解している。

中学校第2学年 英語

継続して課題となった問題

- 8(2)本県 36.8%
- スピーチなどまとまりのある文章を読み、内容を理解することに課題が見られます。
- ※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答】 3 Hiroto's father took away Hiroto's smartphone for one day.

【誤答】

1 Hiroto uses his smartphone for four hours a week.(19.4%)

2 Hiroto went to a big park by bus.(11.6%)

4 Hiroto can't use his smartphone on weekends now. (30.6%)

【無答率】(県 1.6%)

誤答例から想定される授業での生徒の姿

- 一語一語、一文一文の意味を読み取ろうとしている。
- 文と文の関係を正確に読み取る技能が身に付いていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- R5県学調:中学2年8(2) 28.3%
- R4県学調:中学2年8(2) 43.1%

～こんな生徒の姿へ～

文と文との関係を正確に読み取り、文章の概要を捉えることができる生徒

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○日常的な話題について文章の概要を捉える

◆誤答から想定される授業

- 「読む」目的が明確でないまま活動している授業
- 生徒がまとまりのある文章を読んだ後に、教師が文章の内容の確認(Q&A, TorFなど)のみにとどまっている授業

☆こんな授業へ

- 文章を読む目的を明確にし、生徒の読みたいという意欲を高める授業
- 文章全体の主題、各段落の主な内容を捉え、段落と段落がどのような関係になっているのかを読み取る授業

【例えば、こんな授業場面において】

(例)説明文などを読んで文章の概要を捉える授業(指導のポイント)

- 各段落の主な内容を捉える
1人1台端末を活用し、デジタル教科書上の文章に下線を引いたり、メモを書き込んだりしながら文と文がどのような関係になっているかに着目させる。
➡グループ内で主な内容を示す英文はどれか、理由とともに話し合う。
➡全体で、各段落の主な内容を共有する。

- 段落間の関係を把握する
接続表現などに着目し、段落と段落がどのような関係になっているのか(「主題」と「例示」の関係、「時系列」の関係など)考える。

- 概要としてふさわしい英文をグループ内で検討する
複数の英文を配布し、概要として最もふさわしいものはどれか、根拠をもとにペアやグループで話し合う。